

音声メールの利用について

総合情報処理センター 内本 佳彦

1. はじめに

”メール”と言えば、N-1ネットワークでサービスされているN-1メールや研究者用実験ネットワークであるJUNETなどの電子メールをすぐさま連想する。

コンピュータ・ネットワークによって結ばれたコンピュータを利用してメールを送信したり、受信したりすることである。

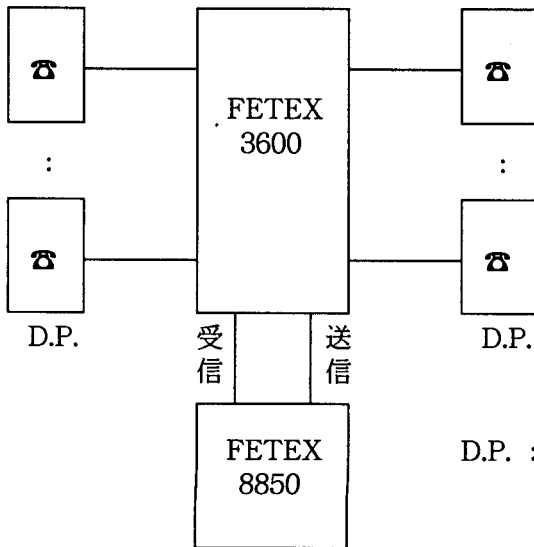
一方では、音声データを取り扱うメールもあり、音声メールと呼ばれる。音声メールとは、電話機から入力された音声メッセージをメールシステム内に一時蓄積し、指定された宛先に対してそのメッセージを転送することである。

本センターは、FETEX-8850メールシステムを設置し実験的運用を行っている。音声とデータ同時通信を可能にしているネットワークコントローラFETEX-3600と連携し、利用者は、ネットワークコントローラに接続されたデジタル多機能電話機から利用が可能である。

以下に音声メールの簡単な利用方法を説明にする。

2. システム構成

音声メールシステムの構成は次の通りである。



D.P. : デジタル多機能電話機

ハードの都合上、メッセージ送信用回線が1回線、受信用回線が1回線しかない。
 メール発信及び受信操作をした時、デジタル多機能電話機の液晶ディスプレイ上に”メール”ではなく”ワチュウ”と表示されたら、しばらく待つ必要がある。

3. 利用方法

メール操作は、まず受話器をとって、デジタル多機能電話機のテンキーを使い、ダイヤルボタン〔136〕でメールシステムのメールセンタを呼出す。

メールセンタにつながると、電話機の液晶ディスプレイ上に”メール”と表示され、メールセンタより「こちらはメールセンタです。」と音声合成された女性の声で返答がある。

その後、メールセンタの指示通り順番に操作し、受話器をおいて終了となる。

メールセンタの指示の問い掛けに答えるとき、「YES」の場合は処理コード「#」、
 「NO」の場合は「*」で対応する。キー入力したものは、液晶ディスプレイ上に表示されるので、その場で確認できる。

3.1 転送サービス

転送サービスは、単に相手へメッセージを送ったり、受け取ったりするもので、基本操作は次の通りである。

(1) メッセージを送信

電 話 機 側		メー ル セ ン タ の 応 答
入 力 項 目	入 力 操 作	
メールセンタ 呼 出	136	・こちらはメールセンタです。 ・サービスコードをどうぞ。ピッ
送信指定コード	31	・宛先番号をどうぞ。ピッ
宛 先 番 号	××××#	・××××ですね。ピッ
確 認 コー ド	#	・次の宛先番号をどうぞ。ピッ
終 了 コー ド	#	・メッセージをどうぞ。ピッ
	(メッセージ録音)	max 200秒程度
終 了 コー ド	# #	・メッセージ番号は××××です。 ・ただいまのメッセージを再生します。 (メッセージ再生) ・確認をどうぞ。ピッ

電話機側		メールセンタの応答
入力項目	入力操作	
確認コード	#	・付加コードをどうぞ。ピッ (注)
終了コード	#	・サービスコードをどうぞ。ピッ
終了コード	#	・これでメールサービスを終わります。
回線切断	(受話器を置く)	

メッセージ録音途中で間違えたら「**」と押すと、録音が中止され再録音ができる。また、「宛先番号」+「#」と「#」の繰り返しで、一度に何ヶ所でもメッセージを送信することもできる。

(2) メッセージを受信

電話機側		メールセンタの応答
入力項目	入力操作	
メールセンタ呼出	136	・こちらはメールセンタです。 ・メッセージが×通届いています。 サービスコードをどうぞ。ピッ
受信指定コード	21	・パスワードをどうぞ。ピッ
パスワード	×××× (注1)	・インデックスコードをどうぞ。ピッ (注2)
受信指定コード	3	・××××から××日×時××分受付のメッセージです。お聞きになりますか。ピッ
確認コード	#	・メッセージを再生します。 (メッセージ再生) ・ただいまのメッセージを繰り返します。 (メッセージ再生) ・処理コードをどうぞ。ピッ (注3)
終了コード	#	・以上です。ただいまメッセージはありません。 ・サービスコードをどうぞ。ピッ
終了コード	#	・これでメールサービスを終わります。
回線切断	(受話器を置く)	

注1) パスワードは電話番号と同じ。各自変更も可能。

注2) インデックスコード

2 …………… メッセージ一覧（目次）を聞きたい時

3 …………… メッセージをすべて聞きたい時

注3) 処理コード

6 …………… メッセージを保存したい時

7 …………… メッセージを繰り返して聞きたい時

メッセージを受け取る時は、2通りあり、ベル呼び出しを受ける場合と、自分から聞こうとする場合がある。

ベル呼び出しの場合は、電話機の変換機能ボタンの中のメール着信表示ランプ（赤）が点滅しているので、それを押せば、ディスプレイに”メール”と表示され、メッセージを受け取れる。

自分から聞こうとする場合は、受話器をとって、〔136〕とダイヤルしてメールセンタを呼び出せばよい。

3.2 代行サービス

代行サービスは相手が話し中（話中代行）や離席中（不在代行）時に利用するものである。

①受話器をとって相手の電話番号××××をダイヤルする。

②「ツーツー…」と受話器より聞こえたら、相手は話し中なので、そのままフッキングをして、続けてダイヤルボタン〔136〕を押して、メールセンタを呼ぶ。

③以下の操作はメッセージ送信時と同じである。

フッキングとは、電話機のフックスイッチ（受話器をかけるところにあるボタン）をポンと下まで約1秒程度押しして話すことである。

また、留守番電話の役目をメールセンタに代行させることもできる。そのためには、自分の席をはずすとき留守番登録が必要である。そして、不要になったら留守番解除をすればよい。

<留守番登録>

- ①受話器をとってダイヤルボタン〔130〕と押す。
- ②受付音（ツツツ）が聞こえ、液晶ディスプレイ上には”カンリョウ”と表示される。
- ③受話器をもどす。（このとき可変機能ボタンに赤ランプが点灯する。）

<留守番解除>

- ①受話器をとってダイヤルボタン〔131〕を押す。
- ②受付音（ツツツ）が聞こえ、液晶ディスプレイ上には”カンリョウ”と表示される。
- ③受話器をもどす。（このとき可変機能ボタンの赤ランプは消灯する。）

3.3 掲示板サービス

あらかじめ登録されているメッセージの内容を聞く。

電 話 機 側		メー ル セ ン タ の 応 答
入 力 項 目	入 力 操 作	
掲 示 板 番 号	1510	掲 示 板 内 容 再 生
回 線 切 断	(受話器を置く)	

4. おわりに

ここでは、音声メールの簡単な利用方法を説明した。現在、ハード的な制約もあり実験的運用だが、音声メールがどんなものか体験することはできる。

FETEX-8850メールシステムは、音声データばかりではなく、FAXデータ、テキストデータを含めたマルチメディアメールシステムの利用も可能である。今後これらの実験的利用も検討していきたい。

参考文献

富士通（株）マルチメディアメールシステム FETEX-8850 の
音声メールの使い方（PBX連携編）